

# 緑の風

京都教育大学 環境教育実践センター 発行

第9号 2012年 7月24日

学長から 懐かしの木々 センターで活動（園芸部） 農業実習など センターの花々 センター動向 スタッフから



7月初旬のセンター農場

## 環境教育実践センターに期待する

—学内外の環境教育の要としていっそうの充実発展を—

学長 位藤紀美子



昭和30年代から40年代にかけて、日本の科学技術の急速な進展や高度経済成長にともなって、ふるさとの家の山の上が市営住宅地として開発され、家の前の坂道を多くの人が上り下りするようになりました。裏の林も多くの木々が切られて、そこに棲みついていた生き物たちが姿を消しました。農業や化学洗剤、化学薬品などが大量に使用されはじめ、健康被害も問題になってきました。太平洋上での原水爆実験後の放射能の問題は、広島・長崎の原爆被爆に続くこととして、雨に濡れるのを殊に警戒しました。私が大学に入り昭和40年代になると、高校の国語教科書に公害を扱った評論教材が掲載されたことで、教材観や指導観

が大きく変わりはじめます。それまでの作品や文章の規範性を重視し正確に読むことから、情報として吟味しながら批判的に読むことが始まりました。高校で水俣病を始め様々な公害・環境問題がとりあげられ、小学校でも足尾鋳山の田中正造が伝記教材になったりしています。自然科学や社会科学に関わる分野の、しかもまだ解決されていない現代の社会問題を国語科でどう取り扱うかは、今なお議論されることです。しかし、公害を含む環境問題が、複雑かつ深刻になり、容易に解決できにくくなってきたために、子どものころから少しずつでも理解し考え取り組んでいかざるを得なくなっているのだと考えられます。

今日、環境問題が多様化複雑化したのに伴い、学校での環境教育は、いろいろな教科で取り上げられていますし、総合的な学習の時間においては、体験や活動を通して、問題や課題について協働しながら探究させることが一般になってきています。しかし、実際には、現象を捉えることはできても、その仕組みについて、高度な専門性に裏付けられた理解力を求めるのは容易ではありません。やはり、毎日の暮らしにおける環境と（自然）との関わりを体験的に省みる機会が必要に思います。

こうした点から、本学の環境教育実践センターは、重要な役割を果たしていると考えます。本センターは、平成4年4月10日に、それまでの附属農場と臨海実験実習室をもとにそれらの機能を受け

継ぎ、文部省令による学内外の環境教育の施設として設置され、その後平成8年に、管理棟が竣工しました。その式典に臨んだとき、建物内部の講義室、図書資料室兼会議室、いくつかの実験室や実習室、また屋外の栽培学習園をはじめとする目的ごとに整備された区画などにいろいろの工夫がされておりましたが、何より自然環境を利用した地下水の雨水槽と屋上の太陽光発電装置に目を見張りました。古くて新しいという印象です。さらに平成17年に設置された有機物リサイクル実験実習室棟には、いっそうその感を強く持ちました。先人の知恵としてあるものが、新たに科学技術による装置として実現したという思いです。

昨春の東日本大震災や東京電力福島第1発電所の事故による放射能問題も、近年のあちこちでの大洪水も、私には子どもの頃から続く不可抗力に近い問題です。加えて、井戸や水道からそのまま飲めたはずの水を今や買わなければならないとか、健康のもとであったはずの陽ざしが皮膚癌の原因になるとか、様々な問題が数多く出てきています。こうした問題を一挙に解決できないにせよ、今後の人類の存続や持続発展社会の形成には、ひとりひとりの意識的な取り組みが不可欠になります。

環境教育実践センターには、学内外の関連機関等との連携協力をさらに強め、環境教育研究の要として、いっそう充実発展をしていただけるよう、支援をしていきたく存じます。

## 懐かしの木々(7)

夏を彩る凌霄花とその仲間たち

田渕春三 (本学名誉教授)



7月始め、センターの入り口では大型でロート型をした橙赤色の美しい花が出迎えてくれる(写真)。ご存じ夏を彩るノウゼンカズラ科のノウゼンカズラ(凌霄花) *Campusis grandiflora*だ。



1960年代の始め頃、大阪市大私市植物園から稚苗を譲り受けて仮植したものを1967年、付属高校新設に伴う畜舎の移転後にその東南隅に定植した。成長後は花の咲く木の少ない夏の花として異彩を放つ美しさと、つるもの故のボリューム感が印象的だった。

ある年、この木に小鳥の巣箱をかけた。野鳥の会の資料によるシジュウガラ用のものでどんな鳥が来るか楽しみにしていたところ、忽ちスズメが居着いた。通りすがりに観察する程度であったが産卵、給餌、用心深い性質など興味尽きず心なませてもらった。年輪を重ね問題も提起された。開花直後の花、さらには蕾までもが次々に落ちて樹下一面に散り敷く有様となった。害虫や鳥によるものかブドウの花振るいにも類似することからある種の生理障害などが疑われたが1992年、農場のセンター化などで手をとられ十分な対策をたてられぬまま私の退職を迎えてしまった。2年後、新しい管理棟の建

設のために畜舎も取り壊され、ノウゼンカズラは伐られた。現存のものはその後、梁川先生が奈良教育大学から提供された穂木を挿木によって育成されたもので、所を得て見事に花開いている。

私事で恐縮ながら落語好きで今は亡き松鶴の大ファン、笑福亭の御家芸「天王寺詣り」はそらんじる程で6月23日に実地検分に出掛けた。まず近くの愛染さんを訪ね、桂の木に凌霄花を絡め、花も嵐も踏み越えた「愛染かつら」と洒落たあたりにニンマリする。天王寺さんではアジサイとシャラノキを楽しんで西門(さいもん)を出て南下、左手を見てワァー、マァー! やや高みに見たことのない青藤色の花が樹冠一杯に(写真)。そは何ものと歩を進めつつ必死に探ったかの有名なジャカラダ *Jacaranda mimosifolia*(ノウゼンカズラ科)と見当をつけて一心寺へ、九州以南の暖地でないと十分開花しない、と承知してただけに数株の青いシャワーに圧倒され言葉が失う程に感動した。

名は別の木にラベルがあつて確認できた。



ここを出てすぐ、通天閣を間近に見ながら見慣れぬ常緑樹を発見。5出掌状複葉とキササゲのような長い実から帰宅後検索をし、ノウゼンカズラ科としたが何せ120属650種を超える大所帯に藪の中、大汗をかいた末に結局インターネットで3~4月に黄金の花に覆われるコガネノウゼン *Tabebuia chrysostricha*と同定できた。熱帯もの2種の大坂の露地での開花に温暖化を痛感しつつ、京都植物園にも無い黄金の花との出会いの楽しみがまた増えた。

## 環境センターで活動しています -園芸部紹介-

部長 樋口沙也加 (美術教育3回)

時々「演」芸部と勘違いされていますが、環境センターで活動している「園」芸部です。昨年よりも人数が増え、充実した活動の様子を少しでも多くの方々に知って頂けたら幸いです。



日頃の活動では、季節ごとの植物の栽培、観賞や収穫を行っています。

「草花の観賞」では、昨年度までは部員それぞれが選んだ植物を「育てて植える」だけだったのですが、今年は配色や高さ、形状等を考慮して配置して美しい空間作りを心掛けています。



まだまだガーデニングセンスが良いとは言えませんが、環境センターのロビー奥の扉を出てすぐ左のスペースは園芸部が手掛けておりますので、宜しければ見てみてください。

「収穫」の活動では、昨年度の冬は種から育てた野菜が盛り沢山の鍋パーティを行うなど、部活ならではの収穫の楽しみを共有できるイベントも行っております。



そして、園芸の枠に囚われない取り組みにも挑戦しました。園芸とアートとの融合、「藍染め」です。勿論藍は種から育てました。苦労は多々ありましたが、何とか実現する事が出来ました。



そんな園芸部、今年度は更なる発展を目指して、現在学園祭への出店準備に取り掛かっております。昨年成功した藍染めのハンカチ、そして現在環境センターにブーム到来中の愛らしい多肉植物の販売を中心に計画しております。果たして成功するのでしょうか。いえ、成功させますので、覗きにきてくださると嬉しいです。

最後になりましたが、これだけ様々な事が可能なのは、センター長であり、園芸部の顧問の梁川先生、そして技術職員の辻さん、志賀さんのおかげです。

まだまだ未熟な園芸部ですが、園芸部でしか出来ない事を一つでも多く実践出来るよう、更に活動に力を入れていきたいと思えます。

### 農業実習 I (6月)

農業実習も佳境に入って、夏野菜の収穫が始まりました。今年は天候がすぐれず、作物の生育が遅れていましたが、何とか収穫できています。

農作業：田植え、イチゴの苗取り、菊の挿し木、ジャガイモの収穫、トウモロコシの管理、葉牡丹の植え付けなど。



(一列に並んで田植え)



(葉牡丹の植え付け、手前で植え穴をあけています)



(収穫したトウモロコシの試食です)

### ジャガイモ掘り

附属幼稚園をはじめ、地域の幼稚園からジャガイモの収穫に来ています。あちこちから黄色い声がにぎやかに聞こえてきます。



(イモ掘りをする園児達)



(一緒に掘っている園長先生)

### 基礎セミナーで栽培体験

今年から、栽培活動をできるだけ多くの学生に体験してほしいと、基礎セミナーの時間を使って、実習することになりました。

センター農場内を見学した後、アロマティカス(前号に写真掲載しました)の植え替えや、パジル、イタリアンパセリなどのハーブ類、サルビアなどの花の苗などをポリポットに植え付ける作業をしました。植え付けた苗は、自宅に持ち帰って大きく育ててほしいと願っています。その結果をレポートにして提出してくれるように伝えてありますが、果たしてどれくらいの学生がレポートしてくるのでしょうか。



(植え付け作業中の学生達)

5月1日の国語教育からはじまって、7月2日の数学教育専攻まで、10専攻の1回生がセンターに来訪して活動してもらいましたが、「久しぶりに土に触った」、「植物栽培活動をしたのは小学校卒業以来だ」、「活動が楽しく、育てるのが楽しみだ」などほとんどの学生が好意的な評価をしています。

これをきっかけとして、ぜひ植物栽培に継続的に取り組んでくれるようになることを期待しています。



(落花生の説明:梁川センター長と学生たち)

## センターの花々

### ハグマノキ (Smoke Tree *Cotinus coggygria*)

英語名でスモーク・ツリー。「煙の木」とか「霞の木」などともよばれる。「ハグマ」とは白熊という意味だそうです。

センター本館前の植え込みにありますが、写真のようにまるで白煙のような花を咲かせて、英名に納得します。モコモコとした雰囲気からは、なるほど白熊の感じも伝わってきますね。



南ヨーロッパから中国にいたるまで広範囲に分布するウルシ科の樹木で、樹高が4-5mほどになるそうです。センターのものはまだ3m位でしょうか。6月が花の最盛期。みごとな煙をたなびかせていて、まことに存在感がありました。現在は盛りをすぎてしまいましたが、まだ煙の雰囲気は残っていますので来られる機会がある方は、ぜひご覧下さい。

### 地球と地域の再発見 -持続可能な社会を築くための環境教育研修会-

日時：7月27日(金)午後～7月28日(土) (一部の参加も可)

会場：丹後 海と星の見える丘公園 (宮津市里波見)

プログラム内容

27日(金)

「漂着物から見える生活と環境」

安松貞夫 (琴引浜ネイチャークラブハウス・館長)

「環境保全と経済活動」

石川誠 (社会科学科・教授)

28日(土)

「石から見える地球の歴史」

田中里志 (理学科・教授)

「今、地震を考える」

谷口慶佑 (理学科・講師)

「46億年地球の道」

清水陸 (地球デザインスクール)

参加費：無料 (食費・宿泊費は実費)

定員：30人 (先着順)

参加対象：幼、小、中、高等学校教員、教職を目指す学生

[申込及び問い合わせ先：](#)

[kyoko@kyokyo-u.ac.jp](mailto:kyoko@kyokyo-u.ac.jp)

※ 詳細及び参加申込書については、下記URL参照

<http://kankyou.kyokyo-u.ac.jp/kankyokyouikukennshukai2012.pdf>

### センター時暦

6月

6月5日(火) 附属幼稚園 タマネギ収穫 年長児59名と教員4名、学生6名

6月7日(木) 附属特別支援学校高等部 センター内水田への田植え 高等部生徒30名と教員9名

6月16日(土) うずらの里児童館親子90組ジャガイモ掘り及びセンター内見学

6月18日(月) みどり保育園47名 //

6月19日(火) 附属幼稚園135名、深草児童館60名 //

6月20日(水) 西福寺幼稚園102名 //

6月21日(木) 伏見板橋幼稚園68名、京極幼稚園33名 //

6月22日(金) 竹田幼稚園24名 //

6月25日(月) 伏見南浜幼稚園70名

6月26日(火) 伏見住吉幼稚園60名、墨染保育所38名 //

6月27日(水) 住吉西保育園52名 //

6月28日(木) 西院幼稚園50名 //

6月29日(金) ドミニコ幼稚園37名 //

6月29日(金) ボランティア「權の会」活動 センター内清掃、除草、花壇管理他

7月

7月3日(火)～5日(木) 附属桃山中学校「職場体験学習」2年生女子3名、男子2名受け入れ、計3日間

7月9日(月) NPO法人地球デザインスクールとの環境教育研修会等打ち合わせ

7月10日(火) 伏見住吉幼稚園 サツマイモ植え付け 年長児39名、教員5名

7月27日(金)～28日(土) 環境教育研修会

-地球と地域の再発見-持続可能な社会を築くための環境教育研修会2012- 共催、NPO法人地球デザインスクール、NPO法人富良野自然塾

### スタッフから

#### 岡本正志

福島原発事故について、国会事故調査委員会の報告書が出されました。さっそくダウンロードして、まずは要約版から読んでみました。これまでの他の報告よりもずいぶんはっきりと電力会社の責任を問うていますし、原子力政策に関する歴史的経過の問題点なども指摘して納得がゆくものだと感じました。この報告書の本文中で、私の研究室で修論を書いた笠潤平さんの論文が使われていて、とても嬉しく思いました。京都教育大学・大学院の出身者がこんなところで活躍しています。

#### 辻 俊夫

少し前までは雨も多く涼しい日が続きましたが、先週から真夏日の様相を呈してきました。水分補給(塩分も)を十分行い、熱中症などにならないよう体調に気をつけて節電の夏を乗り切りたいと思います。

#### 志賀真人

センターの西側、枯れたはずの杉の木の上に青々とした葉が・・・。正体は真竹。幹のすぐ下から出た竹の子が枯れた杉の皮の間で成長し、顔をだしたようです。面白い風景なので、一度見て下さい。

#### 橋本徳子

台風で心配されたトウモロコシも、無事収穫。ジャガイモも沢山実っていて、良かったです。緑のカーテンは、涼やかで、夏のお花は色鮮やか、元気がもらえます。これから、夏色のセンターです。

### 編集後記

暑くなってきました。節電で大騒ぎですが、体調に注意して夏を乗り切りましょう。

今号には学長から貴重な原稿をいただくことができました。くらしと環境との関連について、学長の生い立ちと絡めて書かれていましたが、字数の関係から後半部分のみを掲載しました。前半部は、次号に掲載しますのでご期待ください。

さて、前号で「2041」とは何か、とクイズを出してありました。答えは「丹後半島に金環食が現れる年」でした。残念ながらプロジェクトは採択されず、3千万円は夢と消えましたが、活動は、めげずに行う予定です。次号の発行は10月になります。(O)